

障害者も健常者もおしゃれにはけるパンツや、車いすに座った状態でもシルエツトがきれいなスーツ……。機能性に加え、デザイン性にもこだわった障害者向けの衣服が増えてきた。障害者が前向きに街に出るための一助になりそうだ。  
(児玉圭太)

■寄付募り商品化

大阪市住之江区の服飾デザイナー以呂波かほりさん(42)は7月、障害者と健常者が兼用できる「コットンパンツ「COMFIT」のインターネット販売を始める。

きっかけは、車いすで生活する知人の田中康路さん(44)から「おしゃれがしにくくなった」という悩みを聞いたことだ。8年前にバイク事故に遭い、下半身にまひが残る。ジャージーは楽だが合わせる服が難しく、しっかりした生地ジャージーは着替えが大変だという。

そこで以呂波さんは、伸縮性のある綿素材を使い、股上はずれにくいよう深めにデザイン。長時間座っても苦しくないようお尻の部分は縫い目をなくし、ウエストはひもで調整できるようにした。ポケットは座ったまま使いやすいよう太ももの表側に付け、「これ以上のパンツはない」と田中さんが満足する1着に仕上げた。

健常者がはくと、腰回りがゆったりとしていて、若者に

# バリアフリーな服続々

## 縫製を工夫 デザインも重視

人気の「サルエルパンツ」のようなシルエツトになる。「ハンダの有無にかかわらず共生できる社会を築きたい。健常者にも需要が増えれば商品が安定して供給できる」との思いを込める。

インターネットで寄付を募るクラウドファンディングを活用し、市内の縫製会社などの協力で商品化が実現。税別1万9500円で、黒とカーキの2色を用意した。以呂波さんは「誰もが気軽におしゃれが楽しめるようになれば」と話す。

障害や年齢にかかわらず着こなせる服作りを「ユニバーサルファッション」という。米国の建築家ロナルド・メイイス氏が1990年頃、誰もが使いやすいよう製品や空間を設計する「ユニバーサルデザイン」を提唱し、ファッション分野にも広がった。高齢化を背景にニーズは高まっている。

■イージーオーダー

紳士服製造の花菱縫製(さ)



障害者も健常者もはけるパンツ「COMFIT」。ポケットが太ももの表側に付いている

花菱縫製のイージーオーダーの商品。女性用はスカートも選べる



いたま市は2017年から、車いすの利用者向けにイージーオーダーのスーツやジャケットなどを東京や福岡の7店舗で販売している。

車いすをこぎやすいようジャケットの肩回りにゆとりを持たせ、車輪でこすれやすい袖は人工皮革で補強。パンツは座った状態でもすっきり見えるよう膝裏の布地をつまみ縫いし、裾の前側を長めにするなど、パターンを工夫した。スーツは男性、女性用とも税別4万8000円から。健常者用より9000円アップと比較的手頃なこともあり、年間数着だった障害者からの注文は100着ほどに増えたという。同社担当者は「就職や結婚式への出席などのために購入される方が多く、喜ばれている」と手応えを話す。

■技術学ぶ講座人気

服作りを学べる講座も人気だ。大分市は18年度、障害者向けの服の普及に努める服飾デザイナー鶴丸礼子さんから技術を学ぶ年間講座を始めた

ところ、障害者本人や家族、ファッション協会「理事長の岡田たけ志さんは「若者に限らず、ファッションは障害者にも高齢者にも生きる力を与えてくれる。一方、障害の種類や個人の特性によって抱えている悩みは多様で、対応にコストがかかる。誰もが好きな服を選べる社会にするには、大手企業の協力や国の支援が必要だ」と話している。